



日本心臓血管麻酔学会 第24回学術大会

ランチョンセミナー2 LS2

# 周術期止血マネジメント： ポイントオブケア モニタリングの役割

2019年 9月 20日（金） 12：30～13：30

## 第2会場

（国立京都国際会館 1階 アネックスホール2）

座長

香取 信之 先生

東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座 准教授

演者

田中 健一 先生

メリーランド大学 麻酔科 教授

Department for Anesthesiology, University of Maryland School of Medicine

セミナーの参加には整理券が必要です。

配布場所：国立京都国際会館 アネックスホール ロビー

配布日時：9月20日（金） 7：30～12：00

※整理券はセミナー開始後に無効となります。



## 周術期止血マネジメント： ポイントオブケア モニタリングの役割

### Preoperative Hemostasis Management - Role of POC Coagulation Testing

田中 健一 先生 メリーランド大学 麻酔科

Kenichi A. Tanaka, M.D., M.Sc.

Department of Anesthesiology, University of Maryland School of Medicine

[抄録]

現在、市場には多数のポイントオブケアまたはそれに近い凝固止血診断装置が出回るようになり、心臓外科手術、そのほかの侵襲的手術時の止血管理が身近になってきている。

手術後の出血合併症は、血行動態不全による臓器不全、さらには循環作動薬、輸液、輸血などが多用され、それらの治療自体も副作用または合併症を招くことがあり、患者の予後を悪化させる原因となる。血液製剤の感染症伝播リスクは、近年飛躍的に低下したが、免疫感作、輸血関連循環負荷・急性肺障害などの感染以外の合併症は、予後を悪化させるファクターとして重要視されている。

新鮮凍結血漿および血小板濃厚液は、今まで経験的に使用されてきた理由は、通常の検査室での凝固検査に時間がかかり、原因ははっきりせずとも、眼前の出血を止めるために何かしなければいけない必要があったからである。凝固止血検査が10-15分で確実に結果が戻るならば、より効果のある治療法を選ぶことができる。

今回の講義では新規凝固モニタリングテクノロジー、Sonic Evaluation of Elasticity via Resonance (SEER)をもとに開発されたHemoSonics社Quantraを紹介する。既知の他社製品との比較データも含め、どのような臨床使用が可能かを考察する。フィブリノーゲンなどの凝固因子濃縮製剤も、周術期の使用が欧米で広まりつつある。これらの製剤の投与の意義および適正投与に関しても言及する予定である。

この講義を機会として、凝固止血診断装置への理解を深めていただき、より効率的な周術期止血管理が広まれば幸いである。

